

陰陽道の歴史を伝える「若杉家文書」

陰陽道とは、中国の陰陽五行説に基づいて、平安時代の日本で成立した呪術や占術の技術体系のことです。陰陽道の担い手である陰陽師は、国家専属の占い師として災異や吉凶を占うほか、天文・暦数などを扱いました。

中世以降、民間陰陽師が広まるなど、時代とともに形を変えながらも人々の生活と深く関わっていきました。

近世には、安倍晴明の子孫筋にあたる土御門家が、諸国に散在する陰陽師を支配する権限を幕府から公認されるなど、幕府の宗教政策の一環に組み込まれるという特徴もあります。

「若杉家文書」は、この土御門家の家司を勤めた若杉家に伝来した古文書です。主家の家職である陰陽道に関する古文書、近代以降の若杉家の活動の資料、同家が町年寄を勤めていた上京塔之段松之木町の古文書などがあります。

[\(若杉家文書資料群目録\)](#)

「京の記憶アーカイブ」の開設に伴い、この中から主家土御門家に関わる資料を中心に、若狭国名田庄はじめ中世の土御門家領に関する資料、陰陽道の祭りや作法儀礼に関する書物・記録類、天文方日記等がデジタル画像でご覧いただけるようになりました。

オススメは、叔父義視と將軍継嗣を争って応仁の乱を誘発させた室町幕府第9代將軍足利義尚の自筆の署名が入った泰山府君祭の都状（若杉家文書 24「[足利義尚泰山府君祭都状案](#)」）や陰陽道の呪術作法に関する書籍（若杉家文書 73「[小反閤作法](#)」）です。

ほかにも、徳川幕府に暦を改訂するよう求めた意見書の写しや若杉家代々の当主によって書き継がれた日記などをご覧いただけます。

デジタル公開を機会に、陰陽道の世界をぜひご堪能ください。



若杉家文書 24「[足利義尚泰山府君祭都状案](#)」三ヶ所に「義尚」本人の署名があります。文明 10（1478）年に義尚の身体無事と長寿を祈願して行われました。

（2015 年 11 月 4 日公開）